

ナガチャコガネ幼虫の時期別土中分布と 生物的防除資材の利用

【研究のねらい】

- ・ナガチャコガネは茶の重要害虫であり、一番茶を大きく減収させる要因となっている。
- ・幼虫は土壌中に生息しているため、防除には化学農薬を大量に土壌かん注する方法が用いられており、環境に対する負荷が懸念される。
- ・そこで、環境負荷の少ない防除をするために、ナガチャコガネの産卵位置および幼虫の土中分布を調査し、生物的資材を用いる新たな防除法を検討した。

【研究の成果】

- ・ナガチャコガネの卵は株元に多く、特に細根の間に多くみられた。雨落ち部やうね間にはほとんどみられなかった。卵のみられる深さは、15cmから20cmに多かった。
- ・幼虫は株元を中心に生息しているが10月頃から雨落ち部に移動している個体が見られた。幼虫のみつかる深さは15cmから20cmに多く、垂直分布に変化は少なかった。
- ・生物的防除資材であるBT剤(ブイハンターフロアブル)を希釈倍率125倍で5L/m²を2004年8月13日に土壌灌注したところ、効果が認められた。このBT剤はいも類のコガネムシ幼虫にも登録があり、若齢幼虫対象の薬剤である。2005年に茶のナガチャコガネの農薬としての登録が追加された。

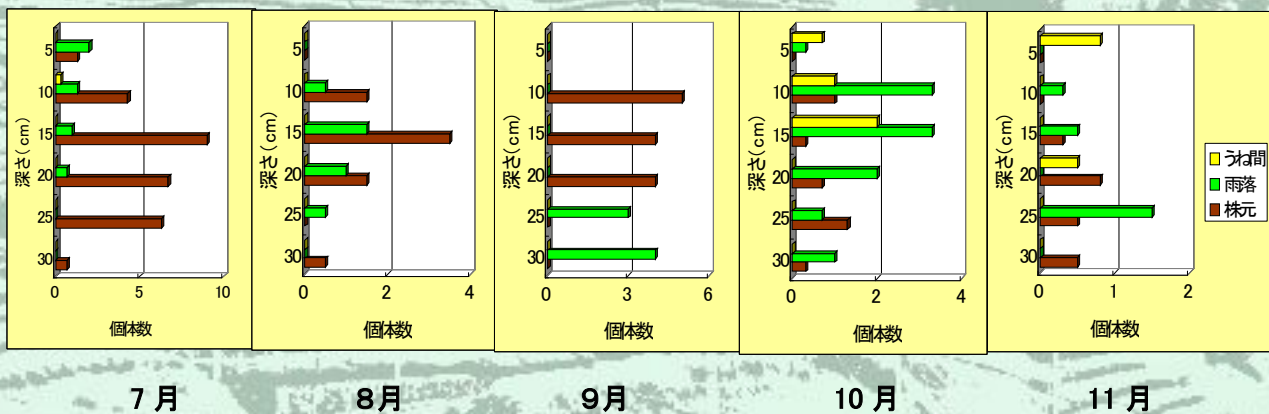


図1 時期別の卵および幼虫の分布
※7月は卵数と孵化直後の幼虫数

表1 各試験区での生存虫数

2004年8月13日薬剤土壌灌注
2004年9月7日～10日掘り取り調査



ナガチャコガネの幼虫

試験区	生存虫数(匹/調査箇所)				平均	防除率 (%)
	I		II			
	①	②	③	④		
ブイハンターフロアブル	1	14	5	2	5.5	71.1
無処理	13	15	29	19	19.0	

問い合わせ先 TEL: 生産環境(病虫害)0548-27-2885

E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp